

令和2年3月16日



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター

福島県南相馬市の「かしまの一本松」の後継樹^{こうけいじゅ}の里帰り ー林木遺伝子銀行110番による樹木の増殖サービスー

ポイント

「かしまの一本松」の後継樹の苗木が、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターから福島県南相馬市に里帰りします。

概要

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター（茨城県日立市）では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、これらを品種開発等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。この事業の一環として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存と併せて、所有者等の要請により後継樹を増殖するサービス「林木遺伝子銀行110番」を行っています。このサービスを活用して、福島県南相馬市において、東日本大震災の津波で被災した鹿島区南右田の松林の中で唯一残った「かしまの一本松」の後継樹として、その種子から増殖し育てた苗木が、3月22日に里帰りします。

問い合わせ先など

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター

事業責任者：遺伝資源部 探索収集課 課長 織部雄一朗

担当者：探索収集課 遺伝資源収集係長 山口秀太郎

広報担当者：育種企画課 課長補佐 橋本光司

Tel : 0294-39-7002 Fax : 0294-39-7306

本資料は、茨城県政記者クラブ、日立市役所記者クラブに配付しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多くあります。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けていることから、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れていることが見込まれ、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、森林総合研究所林木育種センターでは、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により、衰弱しているこれら樹木の後継樹の苗木を増殖し、里帰りを行うサービス「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しており、これまでに、全国から 280 件の要請があり、211 件 307 本の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを行ってきました。

内容

今回里帰りする後継樹は以下の苗木です。

○福島県南相馬市の「かしまの一本松」

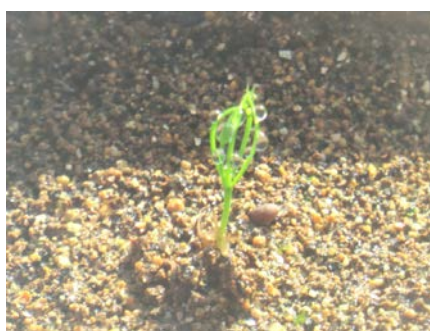
「かしまの一本松」は、福島県南相馬市鹿島区南右田の松林にあった樹高 22m、幹周り 2m のクロマツでした。平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災の津波が防風林としてあったこの松林を襲いましたが、「かしまの一本松」だけは生き残り、被災者の心のよりどころとなっていました。その後、地盤変化による塩分を含む地下水位の上昇などにより樹勢が衰えたこともあり、平成 26 年 8 月に南相馬市から後継樹の増殖を依頼され、穂木を採取して接ぎ木増殖を行いました。樹勢が弱っていたこともあり成功しませんでした。そこで、「かしまの一本松を守る会」から提供された松ぼっくりの種子を播いたところ 1 本の実生苗を育成することに成功し、この苗木をもとに 10 本の接ぎ木苗を育成できました。このうちの 3 本は、3 月 22 日 10 時に開催される「かしまの一本松後継木植樹祭」において里帰りすることになり、残りは、林木育種センター内に保存することとしています。なお、「かしまの一本松」はその後、枯れてしまったこともあり、残念ながら、平成 29 年 12 月 27 日に実施された「お別れ会」において伐採されております。

図、表、写真等



かしまの一本松

(平成 26 年 1 月の様子)



発芽した一本松の種からの苗



里帰りする後継樹